

学業やクラブ活動、友人関係などの問題でストレスを感じながら生活している様子が見られる。

その2、「最近“感動”をすることにできましたか」「ある」・65.7%、「ない」・32.2%、無回答・2.1%であった。感動した内容についての記述をみると映画を見て・30%が一番多く、ついで人との直接のかかわりで感動した・20%、TVを見て、CDを聴いて、ライブにいったが18%であった。その他少数だが素晴らしい景色や、爽やかな天候に見回れてなどである。この中で人との直接の関わりでの、感動については具体的に、人の優しさに触れて、恩師・友人からの励ましの手紙、友人との会話、他人への思いやりなどが挙げられている。物や事、人や自然に感動することは極めて人間的であり、より人間らしく豊かに生きて行く原動力であると考え、感動の価値について学習する事は意味があるといえよう。又、感動がないと回答した学生は、35%が感動がないことをつまらない・悲しい・寂しいことと思ひ、14%が感動するような出会いがしたい、感動してみたいと望んでおり、16%が別にどうでもいい、なにも思わないと無感動の回答は本研究の課題の一つとなる。

質問その1.の「ストレス」と「感動」の有無の回答をクロス集計してみると、ストレスがあり、感動もある・47.5%、ストレスはあり、感動がない・23.3%、ストレスはなく、感動がある・16.4%、ストレスはないが感動もない・9.8%、無回答・3.0%であった。この集計ではストレスがあっても感動できることがあると、ストレスに対応していく意欲があるであろうと考え、集計を行ってみた。その結果としてストレスがあるが、感動することはないの回答者がどのようにストレスを向き合っているのかは残された問題である。

その3、「毎日が楽しいですか」かなり楽しい・7.2%、まあ楽しい・33.7%、普通・40.0%、あまり楽しくない・13.4%、楽しくない・4.2%、無回答・1.5%であった。全体のおよそ20%の楽しくないという回答は、大学や専攻、進路の違いや友人関係の問題などが多くの理由で今後の学生生活全体の気にかかる点である。

その4、「日頃充実感がありますか」充実感がある・8.3%、まあ充実感があると思う・25.7%、普通・38.0%、あまり充実感がないと思う・18.8%、充実感がない・8.6%、無回答・0.6%あった。

その5、「日頃憂鬱感がありますか」憂鬱感はない・6.6%、憂鬱感はあまりない・16.4%、普通・34.0%、わりと憂鬱である・30.7%、かなり憂鬱である・9.6%、無回答・2.7%である。全体の約40%憂鬱であるという回答は、学校の授業に出たくなかったり、授業中であることが新入学生にみられ、学生生活が憂鬱であることは、質問その3で毎日が楽しくないの回答と一致する点である。

Ⅳ. まとめ

本研究において、現代女子学生の学生生活における充実度について調査を試みた。「充実感」を取り巻く要素となる「ストレス」、「感動」、「充実感」、「日々の楽しさ」、「憂鬱感」等についてみると、日々ストレスを感じていながら、感動することもかなりある。充実感はかなり持ち得ているが、半数が憂鬱感を感じている結果で、いかにも現代若者の複雑多様な有り様を呈している。このような実態を学生も把握し、今後のよりよい学生生活の設計指導の一助としたい。

参考文献；教育問題の社会学 高浜介二著 あゆみ出版 1990年11月20日
その他